



HP Integration Bridge

ソフトウェア・バージョン: 1.02

Windows 用 インストール・ガイド

ドキュメント・リリース日: 2015 年 8 月 (英語版)
ソフトウェア・リリース日: 2015 年 8 月 (英語版)

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® およびWindows® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

または、HPソフトウェアサポートページの上部にある**the Register**リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは <http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> です。

このPDF版オンラインヘルプについて

本ドキュメントはPDF版のオンラインヘルプです。このPDFは、ヘルプ情報から複数のトピックを簡単に印刷したり、オンラインヘルプをPDF形式で閲覧できるようにするために提供されています。このコンテンツは本来、オンラインヘルプとしてWebブラウザで閲覧することを想定して作成されているため、トピックによっては正しいフォーマットで表示されない場合があります。また、インタラクティブトピックの一部はこのPDF版では提供されません。これらのトピックは、オンラインヘルプから正しく印刷することができます。

目次

HP Integration Bridge の概要	5
ブリッジのダウンロードとインストール	7
Integration Bridge セキュリティ	11
接続セットアップの管理	14
エンドポイント資格情報マネージャ	14
ALM 資格情報の設定 (エンドポイント資格情報マネージャ)	14
ALM 資格情報の設定 (CLI)	15
ALM 接続用プロキシの設定	22
Agile Manager 資格情報の設定	23
Agile Manager 接続用プロキシの設定	24
NextGen Synchronizer のプロキシ・サポート	26
Integration Bridge の開始と停止	27
Integration Bridge のアンインストール/削除	29
Integration Bridge のアップグレード	31
Integration Bridge のトラブルシューティング	33
ドキュメントのフィードバックを送信	35

HP Integration Bridge の概要

HP Integration Bridge は、カスタマ・システムにインストールされるソフトウェア・コンポーネントであり、Agile Manager とファイアウォールの背後にあるオンプレミス・アプリケーション（HP ALM など）の間を仲介して、両者の間の双方向通信を可能にします。

Integration Bridge をインストールする際には、Integration Bridge アプリケーションと、このアプリケーションを管理する Windows サービスの両方をインストールします。サービスは、システムの起動時に Integration Bridge を自動的に開始する役割を果たします。

Integration Bridge のシステム要件

Integration Bridge をインストールするには、ご使用のシステムが次の最小システム要件を満たしていることを確認します。

オペレーティング・システム	次のいずれか: <ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008 R2 SP1 (64 ビット)Windows Server 2012 R2 SP1 (64 ビット)
メモリ	8 GB
空きディスク容量	80 GB

注:

- Integration Bridge は、ASCII 文字のみを名前に含むパスにインストールする必要があります。
- インストールには、Integration Bridge アプリケーションと、対応する Windows サービスが含まれます。

Integration Bridge タスク

NextGen Synchronizer を使用するには、Integration Bridge をダウンロードしてインストールしてから、ALM に接続するための資格情報を定義します。詳細については、次を参照してください。

- [「ブリッジのダウンロードとインストール」 \(7ページ\)](#)
- [「接続セットアップの管理」 \(14ページ\)](#)

続いて、Agile Manager で同期リンクを作成します。詳細については、Agile Manager ヘルプセンター（[\[ヘルプ\]](#) > [\[このページのヘルプ\]](#)）を参照してください。

必要に応じて、次のメンテナンス関連のトピックを参照してください。

- [「Integration Bridge セキュリティ」 \(11ページ\)](#)
- [「Integration Bridge の開始と停止」 \(27ページ\)](#)
- [「Integration Bridge のアンインストール/削除」 \(29ページ\)](#)
- [「Integration Bridge のアップグレード」 \(31ページ\)](#)
- [「Integration Bridge のトラブルシューティング」 \(33ページ\)](#)

ブリッジのダウンロードとインストール


Integration Bridge を Agile Manager からダウンロードし、Agile Manager と ALM の両方にアクセスできるコンピュータにインストールします。ブリッジは両方のアプリケーションと通信して、2つの間のデータ同期を可能にします。

ブリッジは複数インストールできます。これが必要なのは、異なるネットワーク上にある ALM プロジェクトと Agile Manager を同期する必要がある場合か、多数の同期リンクを定義していて、複数のブリッジの間で負荷を分散したい場合です。

注: Windows 管理者ユーザとしてブリッジをインストールします。ブリッジの実行は、適切な権限を持つ非管理者ユーザでも可能です。

詳細については、「[セキュリティの推奨事項](#)」(12ページ)を参照してください。

Agile Manager からのブリッジのダウンロード

ページ右上の [設定]  をクリックし、左のナビゲーション・メニューで [統合] を選択します。

タブ: [統合] > [Synchronizer]。このタブは、統合管理者に対してのみ表示されます。



ヒント: 自分自身を統合管理者ロールに割り当てた場合は、ログアウトしてログインし直す必要はありません。そのままブラウザのウィンドウを更新して、[統合] 設定領域にアクセスします。

Integration Bridge のインストール時には、**Integration Bridge** ロールに割り当てられた Agile Manager ユーザの資格情報を入力する必要があります。Integration Bridge は、これらの資格情報を使用して Agile Manager にアクセスします。

[サイト] > [ユーザ] 設定ページで、ユーザを Integration Bridge ロールに割り当てます。

[統合] > [Synchronizer 設定] ページで、次のいずれかを実行します。

インストール	手順
初めてブリッジをインストールする場合	チェックリストで、第2ステップのリンクをクリックして、使用しているオペレーティング・システムに対応するブリッジをダウンロードします。
追加のブリッジをインストールするか、アップグレードを実行	[その他のアクション] > [Integration Bridge のダウンロード] を選択します。

インストール	手順
する場合	

Integration Bridge のインストール

1. ブリッジをインストールするコンピュータで、ダウンロードした .zip ファイルを展開します (**hp-integration-bridge-windows.zip**)。この zip ファイルは、名前に英字のみを含むパスに展開する必要があります。




ヒント: zip ファイルに含まれる『HP Integration Bridge インストール・ガイド』のインストール手順に従います。

2. **hp-integration-bridge.exe** ファイルを実行して、インストールを開始します。ウィザードが開いたら、**[OK]** をクリックして開始します。
3. インストール・プロセスの指示に従って、インストールを完了します。
自分のワークスペースに接続するように設定されている、標準設定の値をそのまま受け入れます。

注:

- Integration Bridge は、ASCII 文字のみを名前に含み、連続したスペースを含まないパスにインストールする必要があります。
 - **[Modify an Existing Instance (既存のインスタンスの変更)]** オプションを選択した場合、選択したブリッジはアンインストールされます。アンインストール後、もう一度インストールを実行して、新しいインスタンスをインストールします。
- Agile Manager への接続を設定する **[Setup connection (接続のセットアップ)]** ステップで、次の手順を実行します。

設定	説明
ブリッジ名	ブリッジの名前を定義します。
URL	Agile Manager サイトの URL。標準設定では、この URL はユーザーに応じて設定されています。 この URL は、統合管理者などへの電子メール通知と、ALM で URL 添付を作成する際に使用されます。  ヒント: この URL が電子メール受信者にとってアクセス可能なものであり、かつALM クライアントからアクセス可

設定	説明
	 能なものであることを確認しておくことをお勧めします。
サイト ID (読み取り専用)	Agile Manager サイトのサイト ID。 サイト ID はAgile Manager の URL のテナント ID 属性にあります。 例： TENANTID=123456789 。
【ログイン名】と【パスワード】フィールド	Integration Bridge ロールに割り当てられたユーザの資格情報を入力します。 この資格情報を後から変更する場合は、 「Agile Manager 資格情報の設定」(23ページ) を参照してください。
プロキシ・サーバ	プロキシ・サーバを使用して Agile Manager にアクセスする場合、 【プロキシサーバを使用】 を選択します。 プロキシ・サーバの詳細と、プロキシ・サーバにログインするユーザを入力します。 <ul style="list-style-type: none">◦ ホスト：プロキシ・サーバの有効なアドレス◦ ポート：有効なポート番号（1～65535 の範囲の整数） 後からプロキシ資格情報を変更する場合の詳細については、 「Agile Manager 接続用プロキシの設定」(24ページ) を参照してください。



ヒント:

【Test Connection (接続テスト)】 をクリックすると、ブリッジが Agile Manager に接続できることを確認できます。

この情報を入力すると、Agile Manager への接続がテストされます。テストが失敗した場合、接続設定を再入力するか、ブリッジのインストールを続行して、後で資格情報を変更できます。

- HP Integration Bridge サービスを設定するための **【Setup service (サービスのセットアップ)】** ステップで、標準設定のサービス名とポート番号をそのまま使用するか、必要に応じて変更します。
4. インストールが完了したら、 **【Installation complete (インストール完了)】** メッセージが表示されます。 **Enter**を押して、インストーラを終了します。

5. エンドポイント資格情報マネージャ・アプリケーションが自動的に開きます。ALM に接続するための資格情報を定義します。詳細については、[「接続セットアップの管理」\(14ページ\)](#)を参照してください。

注: リンクを設定する前に、ALM 資格情報を設定する必要があります。

資格情報マネージャが自動的に開かない場合、手動で開くか、CLI を使用して資格情報を設定できます。詳細については、[「接続セットアップの管理」\(14ページ\)](#)を参照してください。

Agile Manager では、新しいブリッジは数秒以内に認識されます。新しいブリッジが表示されない場合は、ページを更新します。そこから、[「同期リンクの作成」](#)をクリックして、リンクの作成を開始します。

参照情報

[「Integration Bridge のアップグレード」\(31ページ\)](#)

Integration Bridge セキュリティ

Integration Bridge が内部情報を公開することはありません。さらに、HP アプリケーションの JAR ファイルは HP によって署名されており、コードの出所を検証するときに役立ちます。

このトピックでは、次の内容について説明します。

- [「SSL 経由の通信」 \(11ページ\)](#)
- [「既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用した接続」 \(11ページ\)](#)
- [「パスワードの暗号化」 \(12ページ\)](#)
- [「セキュリティの推奨事項」 \(12ページ\)](#)

SSL 経由の通信

Integration Bridge と Agile Manager の間の通信は、SSL によってセキュリティ保護されています。

Bridge はインストール中またはインストール後に指定したユーザ資格情報を使用して、Agile Manager にログインします。詳細については、[「Agile Manager 資格情報の設定」 \(23ページ\)](#)を参照してください。

既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用した接続

既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用して、セキュリティ保護された Agile Manager または ALM サーバに接続する場合、証明書に対する信頼を確立する必要があります。

この信頼を確立するには、発行者の証明書を、次のディレクトリにある JRE のトラストストアにインポートします。

< Integration Bridge インストール・ディレクトリ > \product\util\3rd-party\jre1.7.0_51\jre\lib\security

次の操作を実行します。

1. Agile Manager または ALM をブラウザ・ウィンドウで開き、証明書をブラウザからエクスポートして **server.cer** という名前のファイルに保存します。
2. Integration Bridge マシンで、**server.cer** ファイルを **< Integration Bridge インストール > \product\util\3rd-party\jre1.7.0_51\jre\bin** ディレクトリに置きます。
3. **< Integration Bridge インストール > \product\util\3rd-party\jre1.7.0_51\jre\bin** ディレクトリにある **keytool** コマンドを使用して、**server.cer** ファイルを **< Integration Bridge インストール > \product\util\3rd-party\jre1.7.0_51\jre\lib\security\cacerts** ディレクトリにインポートします。

例：

```
keytool.exe -import -v -trustcacerts -alias <エイリアス>  
-file server.cer -storepass <パスワード> -keystore <Integration Bridge イン  
ストール>\product\util\3rd-party\jre1.7.0_51\jre\lib\security\cacerts
```

注: 証明書チェーンの残りの部分に対して、それぞれ異なるエイリアスを使用しながらこのコマンドを繰り返すことが必要な場合があります。

4. Integration Bridge を再起動します。


パスワードの暗号化

エンドポイントへの接続用パスワードは暗号化後にカスタマのマシンに保存されており、資格情報を別のマシンへ転送できないようになっています。

この暗号化方法では、インストール中にランダムに生成されたキーを使用します。ブリッジは、暗号化方法として AES 128 を主に使用します。

セキュリティの推奨事項

セキュリティの推奨事項	
ダウンロード・ソース	不明なソースから Integration Bridge のインストール・ファイルや更新プログラムをダウンロードしないでください。
Integration Bridge マシン	専用の堅牢なマシンに Integration Bridge をインストールします。
Integration Bridge ネットワーク	ブリッジのネットワークとターゲットのオンプレミス・アプリケーションの間にファイアウォールを配置して、分離されたネットワークに Integration Bridge をデプロイします。 <ul style="list-style-type: none">• Agile Manager との通信用にポート 443 を開く必要があります。• ほかのオンプレミス・アプリケーションとの内部通信用に、必要に応じて、追加のポートを開きます。
Integration Bridge 権限	標準設定では、Integration Bridge サービスは、Windows の Local System サービス・ユーザを使用して実行されます。 システムのセキュリティを高めるには、Integration Bridge の実行に単純なユーザを割り当てます。 <ul style="list-style-type: none">• Program Files フォルダ以外のフォルダに Integration Bridge をインストールします。これにより、Integration Bridge インストール・フォルダに対する権限を単純なユーザに付与することができます。• インストール・フォルダに対するすべての権限（読み取り/書き込み/実行）をそのユーザに付与します。• Integration Bridge Windows サービスを管理する権限をそのユーザに付与します。• Windows サービス・マネージャを開き、単純なユーザのアカウントを使用して実行するように HP Integration Bridge サービスを変更して、サービスを再起動します。

セキュリティの推奨事項	
	 ヒント: Integration Bridge のインストール・フォルダを保護するために、このフォルダに対する権限を、管理者、Local System サービス・ユーザ、および作成した専用のユーザだけに付与します。
Integration Bridge ユーザ	Integration Bridge ロールが割り当てられたAgile Manager ユーザには、その他のロールを割り当てないようにしてください。
オンプレミス・アプリケーション・ユーザ	ALM ユーザなど、Agile Manager と通信するオンプレミス・アプリケーション・ユーザ向けの権限を定義する場合、権限の範囲は具体的に必要な操作に制限します。

接続セットアップの管理

資格情報は、Integration Bridge と Agile Manager または ALM の間でセキュアな双方向通信を提供する目的で使用されます。

エンドポイント資格情報マネージャ

Integration Bridge のインストール後に、エンドポイント資格情報マネージャ・アプリケーションが自動的に開きます。このアプリケーションは、ALM 資格情報の管理に使用されます。

注:

ALM 資格情報は、Agile Manager と ALM の間でエンティティを同期する前に設定し、後でこの資格情報に変更があった場合に、設定を修正する必要があります。

エンドポイント資格情報マネージャ・アプリケーションが自動的に開かない場合や、後で再び資格情報を変更する必要がある場合は、手動で開きます。エンドポイント資格情報マネージャは、Integration Bridge とともにインストールされます。

本項の内容

ALM 資格情報の設定（エンドポイント資格情報マネージャ）

この手順は、Integration Bridge の実行権限を持つユーザとして実行します。

GUI をサポートしない Linux マシンを使用する場合、コマンド・ライン・インタフェース (CLI) を使用して ALM の資格情報を設定します。

1. Integration Bridge マシン上で、上記の説明に従ってエンドポイント資格情報マネージャ・アプリケーションを開きます。
2. * [新規] をクリックして、一連の資格情報を作成します。
3. 右側に資格情報を入力した後、[保存] をクリックします。

フィールド	説明
表示名	Agile Manager でのリンクの設定時に、この特定の資格情報レコードを識別するために使用する名前。
ユーザ	ALM に接続するユーザの名前。

[「delete」](#)

[「help」](#)

list

Integration Bridge から ALM への接続に利用可能な資格情報レコードを一覧表示します。

使用法

```
credentials_mng_console.bat list -endpoint <エンドポイント・タイプ>
```

パラメータ

-endpoint <エンドポイント・タイプ>	ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です（オプション）。 このタイプ名は、 「listEndpointTypes」 コマンドで利用可能な値である必要があります。
--------------------------------------	---

サンプル結果

```
=====  
Endpoint type : sample-endpoint-type-11.5  
ID : 9460b7  
Name : sample credentials record  
User : sample username  
Password : *****  
Parameters :  
Key | Value  
-----  
sample.secret.property | *****  
sample.url.property | 123
```

listEndpointTypes

ALM バージョンなど、Integration Bridge にアクセスできる、利用可能な ALM エンドポイント・タイプを一覧表示します。エンドポイントは、タイプ名でフィルタ処理できます。

使用法

```
credentials_mng_console.bat listEndpointTypes -endpoint <エンドポイント・タイプ>
```


パラメータ

-endpoint <エンドポイント・タイプ>	エンドポイント・タイプ名 (オプション)
-------------------------	----------------------

サンプル結果

```
Endpoint types :  
1. alm
```

listCredentialIds

ALM 資格情報レコード ID と、各資格情報 ID に関連する ALM エンドポイント・タイプをすべて一覧表示します。

使用法

```
credentials_mng_console.bat listCredentialIds -endpoint <エンドポイント・タイプ>
```

パラメータ

-endpoint <エンドポイント・タイプ>	ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です (オプション)。 このタイプ名は、「listEndpointTypes」コマンドで利用可能な値である必要があります。
-------------------------	--

サンプル結果

```
Endpoint type : alm-11.5  
Name | ID :  
1. sample credentials record name | 11e7  
=====
```

```
Endpoint type : sample-endpoint-type-11.5  
Name | ID :  
1. sample credentials record name | 21e0  
2. sample credentials record #2 name | 7e0
```

```
Endpoint type : alm-11.5  
Name | ID :  
1. sample credentials record name | 11e7  
=====
```

```
Endpoint type : sample-endpoint-type-11.5  
Name | ID :  
1. sample credentials record name | 21e0  
2. sample credentials record #2 name | 7e0
```

listEndpointTypeParams

資格情報の保存に必要なパラメータを ALM エンドポイント・タイプごとに一覧表示します。

使用法

```
credentials_mng_console.bat listEndpointTypeParams -endpoint <エンドポイント・タイプ>
```

パラメータ

-endpoint <エンドポイント・タイプ>	ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です (オプション)。 このタイプ名は、 「listEndpointTypes」 コマンドで利用可能な値である必要があります。
--------------------------------------	---

サンプル結果

```
=====  
Endpoint type   : sample-endpoint-type-11.5  
Output format:  
Parameter:  
Label:  
Description:  
Mandatory:  
-----  
Endpoint type specific parameters:  
Parameter: sample.url.property  
Label:Server URL  
Description:URL address for sample server  
Mandatory: true  
Parameter: sample.secret.property
```

```
Label:Secret key
Description:Secret key for sample server
Mandatory: false
```

create

Integration Bridge から ALM にアクセスするための資格情報レコードを作成します。

使用法

```
credentials_mng_console.bat create -file <データ・ファイルへのパス> -user <ユーザ>
> -pass <PASSWORD> -endpoint <エンドポイント・タイプ> -name <資格情報レコード名>
> -param <キー> <値> -param <キー> <値>
```

使用例 - 一般

```
credentials_mng_console.bat create -user <ユーザ> -pass <パスワード> -
endpoint sample-endpoint-type-11.5 -name <資格情報名> -param
sample.url.property <パラメータ値> -param sample.url.property <パラメータ値>
```

使用例 - ALM の場合

```
credentials_mng_console.bat create -user <ユーザ> -pass <パスワード> -
endpoint alm-11.5 -name <資格情報名>
```

パラメータ

-file <ファイル>	プロパティ・ファイルからパラメータを読み取ります（オプション）。 コンソールで指定されたパラメータは上書きされます。
-user <ユーザ>	ユーザ名
-pass <パスワード>	パスワード
-endpoint <エンドポイント・タイプ>	ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です。 このタイプ名は、「listEndpointTypes」コマンドで利用可能な値である必要があります。
-name <資格情報名>	資格情報レコード名
-param <キー> <値>	カスタム・パラメータ（オプション）

<code>-replace</code>	既存のパラメータをすべて入力パラメータに置き換えます（オプション）
-----------------------	-----------------------------------

プロパティ・ファイルは、資格情報のプロパティを記述するテキスト・ファイルです。ファイルの形式は次のとおりです。

```
endpoint=<エンドポイント・タイプ>
name=<名前>
user=<ユーザ>
pass=<パスワード>
customParam1=value1
customParam2=value2
```

サンプル結果

```
endpoint=<エンドポイント・タイプ>
name=<名前>
customParam1=value1
customParam2=value2
```

update

Integration Bridge から ALM にアクセスするための既存の資格情報レコードを更新します。

使用法

```
credentials_mng_console.bat update -user <ユーザ> -pass <パスワード> -
credentialsId <資格情報 ID> -endpoint <エンドポイント・タイプ> -param <キー>
<値> -param <キー> <値> -replace
```

使用例

```
credentials_mng_console.bat update -user <ユーザ> -pass <パスワード> -
credentialsId <資格情報 ID> -endpoint alm-11.5 -replace
```

パラメータ

<code>-file <ファイル></code>	プロパティ ・ファイルからパラメータを読み取ります（オプション）。 コンソールで指定されたパラメータは上書きされます。
---------------------------------	---

-user <ユーザ>	新しいユーザ名
-pass <パスワード>	新しいパスワード
-credentialsId <資格情報 ID>	更新する資格情報レコードの ID
-endpoint <エンドポイント・タイプ>	ALM バージョンなどの新しいエンドポイント名です。 このタイプ名は、「listEndpointTypes」 コマンドで利用可能な値である必要があります。
-param <キー> <値>	カスタム・パラメータ (オプション)
-replace	既存のパラメータをすべて入力パラメータに置き換えます (オプション)

delete

ALM 資格情報レコードを削除します。

注: 資格情報レコードからパラメータを単独で削除することはできません。資格情報レコード全体を削除することのみできます。

使用法

```
credentials_mng_console.bat delete -endpoint <エンドポイント・タイプ> -  
credentialsId <資格情報 ID>
```

パラメータ

-endpoint <エンドポイント・タイプ>	ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です。 このタイプ名は、「listEndpointTypes」 コマンドで利用可能な値である必要があります。
-credentialId <資格情報 ID>	資格情報レコード ID

help

Integration Bridge 用の ALM 資格情報の設定時に、現在のコマンドについてのヘルプを表示します。

使用法

```
credentials_mng_console.bat help
```

ALM 接続用プロキシの設定

標準設定では、Integration Bridge と ALM との間の接続ではプロキシによる認証は行われません。プロキシを設定するには、次を実行します。

注:

この手順は、Integration Bridge の実行権限を持つユーザとして実行します。

1. <Integration Bridge installation directory>\product\domain\alm\conf フォルダで、**proxy.properties** ファイルを開きます。
2. プロキシを使用するには、**setProxy** の値を **true** に変更します。
この値が **false** の場合、プロキシ設定は無視され、プロキシは使用されません。
3. プロキシ・ホストとポートの値を設定するには、次の手順を実行します。
 - a. **proxyHost** の値をプロキシの IP アドレスまたはサーバ名に変更します。
 - b. **proxyPort** の値を、プロキシで使用するポートに変更します。
proxyHost を指定した場合、**proxyPort** の値も指定してください。

例

```
setProxy=true  
proxyHost=123.45.6.7  
proxyPort=1234  
proxyUser=  
proxyPass=
```

4. プロキシで認証が必要な場合：
 - a. **proxyUser** の値をプロキシのユーザ名に変更します。
 - b. **proxyPass** の値をプロキシのパスワードに変更します。
proxyUser の値を指定した場合、**proxyPass** の値も指定してください。

例

```
setProxy=true  
proxyHost=123.45.6.7  
proxyPort=1234  
proxyUser=MyUserName  
proxyPass=MyPassword
```

5. **proxy.properties** ファイルを保存します。
6. Integration Bridge を再起動します。詳細については、[「Integration Bridge の開始と停止」 \(27 ページ\)](#)を参照してください。



ヒント: 認証が失敗した場合は、**proxy.properties** ファイルの内容に構文エラーや無効な値がないことを確認してください。

Agile Manager 資格情報の設定

credentials_mng_console.bat コマンド・ライン・ツールを使用して、Agile Manager への接続に使用される資格情報を設定します。

管理者または Integration Bridge の実行権限を持つユーザとして、次の手順を実行します。

1. <ブリッジのインストール・ディレクトリ>\product\util\opb ディレクトリを開きます。
2. **bridgeAuthentication.bat** ファイルを実行します。

注: Agile Manager 資格情報を設定するのは、Integration Bridge エージェントを最初にインストールした時点から資格情報に変更があった場合のみです。

bridgeAuthentication ツールは、次のコマンドをサポートしています。

[「setAuth」 \(23ページ\)](#)

[「help」 \(24ページ\)](#)

setAuth

Integration Bridge から Agile Manager に接続するための資格情報を設定します。

注: Agile Manager にログインするユーザには、Agile Manager の **Integration Bridge** ロールを

割り当てる必要があります。

セキュリティ上の理由から、**Integration Bridge** ユーザにはその他のロールを割り当てないようにします。

使用法

```
bridgeAuthentication.bat setAuth -user <ユーザ> -pass <パスワード>
```

パラメータ

-user <ユーザ名>	Agile Manager に接続するユーザの名前。
-pass <パスワード>	Agile Manager に接続するユーザのパスワード。
-emptyPass	空のパスワードを設定。

help

Integration Bridge 用の Agile Manager 資格情報の設定時に、現在のコマンドについてのヘルプを表示します。

使用法

```
bridgeAuthentication.bat help
```

Agile Manager 接続用プロキシの設定

proxyConfiguration コマンド・ライン・ツールを使用して、プロキシ・サーバを介して Agile Manager にアクセスするための資格情報を設定します。

1. <ブリッジのインストール・ディレクトリ>\product\util\opb ディレクトリを開きます。
2. **proxyConfiguration.bat** ファイルを実行します。

注:

- プロキシ・サーバ資格情報を設定するのは、Integration Bridge を最初にインストールした時点から資格情報に変更があった場合のみです。
- 変更後には、必ず Integration Bridge を再起動します。詳細については、「[Integration Bridge の開始と停止](#)」(27ページ)を参照してください。

proxyConfiguration ツールは、次のコマンドをサポートしています。

[「setAddress」](#)

[「removeProxyConfiguration」](#)

[「setAuth」](#)

[「removeAuth」](#)

[「help」 \(26ページ\)](#)

setAddress

プロキシ・サーバを介して Agile Manager にアクセスするためのホストとポートを設定します。

使用法

```
proxyConfiguration.bat setAddress -host <プロキシ・ホスト> -port <プロキシ・ポート>
```

パラメータ

-host <プロキシ・ホスト>	プロキシ・サーバのホストのアドレス。
-port <プロキシ・ポート>	プロキシ・サーバのポート番号。

removeProxyConfiguration

プロキシ・サーバを介さずに Agile Manager にアクセスするように Integration Bridge を設定します。

使用法

```
proxyConfiguration.bat removeProxyConfiguration
```

setAuth

プロキシ・サーバを介して Agile Manager にアクセスする場合に、プロキシ・サーバに接続するための資格情報を保存します。

使用法

```
proxyConfiguration.bat setAuth -user <ユーザ> -pass <パスワード>
```

パラメータ

-user <ユーザ名>	プロキシ・サーバに接続するユーザの名前。
-pass <パスワード>	プロキシ・サーバに接続するユーザのパスワード。

removeAuth

以前にプロキシ・サーバを介した Agile Manager への接続に使用された一連の資格情報を削除します。

使用法

```
proxyConfiguration.bat removeAuth
```

help

プロキシ・サーバを介した Agile Manager へのアクセスの設定時に、現在のコマンドについてのヘルプを表示します。

使用法

```
proxyConfiguration.bat help
```

NextGen Synchronizer のプロキシ・サポート

NextGen Synchronizer は次のタイプのプロキシ認証をサポートします。

Integration Bridge と次の間		Agile Manager	ALM
正方向	認証なし	√	√
	基本認証	√	√
逆方向	認証なし	√	√
	基本認証	x	x

注: NTLM 認証は、どのタイプのプロキシに対してもサポートされていません。

Integration Bridge の開始と停止

Integration Bridge Windows サービスがインストールされている場合、Integration Bridge はシステムの起動時に自動的に開始されます。

このトピックでは、ブリッジの起動を手動で管理する方法について説明します。

この手順は、Integration Bridge の実行権限を持つユーザとして実行します。

注:

- Integration Bridge サービスは、Integration Bridge インストールの一部としてインストールされます。

```
<ブリッジ・インストール・ディレクトリ> /product/bin/HPIntegrationBridge.sh  
install
```

- Agile Manager が ALM などのオンプレミス・アプリケーションと通信するには、このブリッジが動作している必要があります。
- ALM プロジェクトをアップグレードした場合、ALM と Agile Manager の間のデータの同期を継続するために、アップグレード後に手動でブリッジを再起動する必要があります。

ブリッジの開始	StartHPIntegration Bridge アプリケーションを検索または参照して選択します。
ブリッジの停止	StopHPIntegration Bridge アプリケーションを検索または参照して選択します。
Windows サービスによるブリッジの管理	<ol style="list-style-type: none">services.msc コマンドを実行します。HPIntegration Bridge サービスを選択します。必要に応じて、サービスを停止または開始します。これにより、ブリッジ・アプリケーションも開始および停止されます。

コマンド・ラインによるブリッジの管理

HPIntegrationBridge コマンド・ライン・ツールを使用します。

- <ブリッジのインストール・ディレクトリ> \product\bin ディレクトリを開きます。
- HPIntegrationBridge.bat** ファイルを実行します。


次のコマンドを使用します。


タスク	コマンド
ブリッジの開始	HPIntegrationBridge.bat start
ブリッジの停止	HPIntegrationBridge.bat stop
ブリッジの再起動	HPIntegrationBridge.bat restart
Integration Bridge サービスのインストール	HPIntegrationBridge.bat install
Integration Bridge サービスの削除	HPIntegrationBridge.bat remove

Integration Bridge のアンインストール/削除

ブリッジが不要になった場合や、アップグレードの前には、ブリッジをアンインストールします。

ブリッジが不要になった場合や、ブリッジを使用することがなくなった場合には、[リンク設定] ナビゲーション・ツリーからブリッジを削除します。

1. Agile Manager の [統合] > [ リンク設定] ページで、左側にあるナビゲーション・ツリーを展開します。
ブリッジにリンクが設定されていないことを確認します。既存のリンクが存在する場合、削除します。
ツリーでリンクを選択して、[その他のアクション] > [削除] を選択します。
2. Integration Bridge に関連するすべてのツール、フォルダ、ファイル（エンドポイント資格情報マネージャなど）を閉じます。
3. 次の操作を実行します。

タスク	説明
ブリッジのアンインストール	<p>[スタート] メニュー・オプションを使用するか、Windows コントロール・パネルから、Windows 管理者ユーザとして Integration Bridge をアンインストールします。</p> <p>関連する資格情報も削除する場合は、アンインストール処理で、[資格情報の削除] を選択します。標準設定では、資格情報は保持され、今後のインストールやアップグレードで使用できます。</p>
Agile Manager ユーザ・インタフェースからのブリッジの削除 (オプション)	<p>Agile Manager で、ブリッジ名を選択して、コンテキスト・メニューから [ブリッジの削除] を選択するか、[その他のアクション] > [削除] を選択します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #fff9e6; padding: 10px;"><p> 注意: ブリッジを復元する意図がない場合にのみ、ユーザ・インタフェースからブリッジを削除します。</p><p>NextGen Synchronizer から削除したブリッジは、まだアンインストールしていない場合でも復元できません。</p></div>

Integration Bridge をアンインストールすると、`server-connection.conf` ファイルでカスタマイズしたプロパティは削除されます。

server-connection.conf ファイルの情報は、**server-connection.bak** ファイルにバックアップされます。ブリッジのアップグレードなどの目的で、この情報を後で使用するには、バックアップ・ファイルの名前を変更して、新しいインストール用のフォルダにコピーします。

詳細については、[「Integration Bridge のアップグレード」 \(31ページ\)](#)を参照してください。

Integration Bridge のアップグレード

次のいずれかの方法で Integration Bridge をアップグレードします。

- 「前のブリッジと同じサーバ上の既存のブリッジのアップグレード」(31ページ)
- 「Integration Bridgeのアップグレードと新しい場所へのインストール」(32ページ)

どちらのアップグレード方法でも、設定済みのエンドポイント資格情報は保持されます。

注: Integration Bridge が HTTPS を使用して Agile Manager または ALM と通信する場合、ブリッジのアップグレード後に証明書を再インストールする必要があります。詳細については、「[既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用した接続](#)」(11ページ)を参照してください。

前のブリッジと同じサーバ上の既存のブリッジのアップグレード

この手順では、アップグレードされたブリッジを既存のブリッジとして登録します。


1. Integration Bridge をアンインストールします。詳細については、「[Integration Bridge のアンインストール/削除](#)」(29ページ)を参照してください。アンインストール・ウィザードでは、「[資格情報の削除](#)」を選択しないでください。
2. [統合] > [ リンク設定] ページから、Integration Bridge の新しいバージョンをダウンロードします。
[その他のアクション] > [Integration Bridge のダウンロード] > [Windows 用] を選択します。
3. ダウンロードした zip ファイル (hp-integration-bridge-windows.zip) を新しいフォルダに解凍します。
4. 前のインストールから新しいインストールに値をコピーします。次の操作を実行します。
 - a. 前のバージョンのインストール・ディレクトリで、`\product\conf\server-connection.bak` ファイルにアクセスします
 - b. 同時に開いたウィンドウで、Integration Bridge の新しいバージョンとともにダウンロードされる `server-connection.conf` ファイルを参照して、編集用に開きます。
 - c. 前のインストール・ファイルから `agent.guid` プロパティとその値をコピーして、新しいファイルに付加します。新しいファイルを保存します。
5. 新しくダウンロードされる `hp-integration-bridge.exe` を実行して、インストールを開始します。

インストール中に、「インストール フォルダの選択」画面で、前のバージョンで使用したインストール・フォルダを選択します。

詳細については、「[ブリッジのダウンロードとインストール](#)」(7ページ)を参照してください。

Integration Bridgeのアップグレードと新しい場所へのインストール

この手順では、アップグレードした Integration Bridge を前のバージョンと同じサーバ上の新しいディレクトリか、まったく新しいマシン上の新しいディレクトリにインストールします。

1. Integration Bridge をアンインストールします。詳細については、[「Integration Bridge のアンインストール/削除」\(29ページ\)](#)を参照してください。アンインストール・ウィザードでは、**「資格情報の削除」**を選択しないでください。
2. **【統合】** > **【リンク設定】** ページから、Integration Bridge の新しいバージョンをダウンロードします。
【その他のアクション】 > **【Integration Bridge のダウンロード】** > **【Windows 用】** を選択します。
3. ダウンロードした zip ファイル (**hp-integration-bridge-windows.zip**) を新しいフォルダに解凍します。
4. 前のインストールから新しいインストールにファイルと値をコピーします。次の操作を実行します。
 - a. 新しいバージョンをインストールするディレクトリに、**product\conf** というフォルダ構造を作成します。
 - b. 前のバージョンのインストール・ディレクトリから、前の手順で作成した **conf** ディレクトリに、次のファイルをコピーします。
 - **credentialsStore.xml**
 - **key.bin**
 - c. 前のバージョンのインストール・ディレクトリで、**\product\conf\server-connection.bak** ファイルにアクセスします
 - d. 同時に開いたウィンドウで、Integration Bridge の新しいバージョンとともにダウンロードされる **server-connection.conf** ファイルを参照して、編集用を開きます。
 - e. 前のインストール・ファイルから **agent.guid** プロパティとその値をコピーして、新しいファイルに付加します。新しいファイルを保存します。
5. **hp-integration-bridge.exe** を実行して、インストールを開始します。

インストール中に、**【Select installation (インストールの選択)】** 手順で、新しいバージョンをインストールするディレクトリを選択します。

詳細については、[「ブリッジのダウンロードとインストール」\(7ページ\)](#)を参照してください。

Integration Bridge のトラブルシューティング

このトピックでは、次の各シナリオを取り上げます。

- 「インストール後にブリッジが認識されない」 (33ページ)
- 「Agile Manager でブリッジ名が赤字で表示される」 (33ページ)
- 「ブリッジを停止してから開始しても、Integration Bridge がオフラインのままである」 (33ページ)
- 「Agile Manager でブリッジの接続ステータスが不明として表示される」 (34ページ)
- 「ブリッジが Agile Manager または ALM にログインできない」 (34ページ)
- 「「403」または「承認例外」エラーが発生する」 (34ページ)

インストール後にブリッジが認識されない

インストールが完了した後に、ブリッジが Agile Manager の [統合] > [Synchronizer] または  [リンク設定] ページに表示されない場合、[更新] をクリックするか、ブラウザのページを更新します。

- それでもブリッジが表示されない場合は、ブリッジが実行されていることを確認してください。詳細については、「[Integration Bridge の開始と停止](#)」 (27ページ) を参照してください。

Integration Bridge Windows サービスは、ブリッジの起動を数回試行します。成功しなかった場合、アプリケーションがシャットダウンして、サービスが停止します。

- ブリッジが起動しない場合、<インストール・フォルダ>\product\log\controller\wrapper.log ファイルの `Drmi.server.port` の値が利用可能なポートに設定されているかどうかを確認します。
- Integration Bridge Windows サービスがブリッジの起動を試行したときに、定義されているポートが別のアプリケーションで使用中的の場合、次のエラーがログ・ファイルに出力されます。

wrapper ログ・ファイル内	java.rmi.server.ExportException: Port already in use: <ポート>
controller ログ・ファイル内	java.rmi.NotBoundException: ControllerAPI

Agile Manager でブリッジ名が赤字で表示される

Integration Bridge がダウンしている。Agile Manager で、ブリッジ名をクリックして、ブリッジがサーバにアクセスした最終時刻を確認します。

ブリッジを停止してから開始しても、Integration Bridge がオフラインのままである

Agile Manager でブリッジの接続ステータスが [オフライン] と表示される場合は、ブリッジを再起動してみてください。詳細については、「[Integration Bridge の開始と停止](#)」 (27ページ) を参照してください。

ブリッジがオフラインのままである場合、ブリッジ・ユーザの Agile Manager パスワードが期限切れになっている可能性があります。

ブリッジが Agile Manager への接続に使用する資格情報を更新します。詳細については、「[接続セットアップの管理](#)」(14ページ)を参照してください。

Agile Manager でブリッジの接続ステータスが不明として表示される

Integration Bridge ログ・フォルダ (<ブリッジ・インストール・ディレクトリ > \product\log\controller) にある次のログ・ファイルをチェックしてください。

- **controller.log**
- **wrapper.log**

さらに、<ブリッジ・インストール・ディレクトリ > \product\log\<エンドポイント・タイプ名 > ディレクトリにある <エンドポイント・タイプ名 > .log ファイルをチェックします。

ブリッジが Agile Manager または ALM にログインできない

エンドポイントに対して定義された資格情報に誤りの可能性があります。資格情報の確認または変更の詳細については、「[接続セットアップの管理](#)」(14ページ)を参照してください。

「403」または「承認例外」エラーが発生する

Integration Bridge から Agile Manager にアクセスしているユーザが **Integration Bridge** ロールで定義されていません。

Agile Manager 設定領域 ([サイト] > [ユーザ]) で、このユーザのロールを変更します。

注: セキュリティ上の理由から、**Integration Bridge** ユーザにはその他のロールを割り当てないようにします。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on Windows 用インストール・ガイド (Agile Manager 1.02)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、SW-Doc@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

